

検定協会だより

1

令和2年1月
第469号





目次

新年のご挨拶

- | | | |
|----|------------------|----------|
| 1 | 日本消防検定協会 | 理事長 高橋 淳 |
| 2 | 消防庁 | 長官 林崎 理 |
| 3 | 全国消防長会 | 会長 安藤俊雄 |
| 4 | (一社) 全国消防機器協会 | 会長 橋爪 毅 |
| 5 | (一社) 日本火災報知機工業会 | 会長 金森賢治 |
| 6 | (一社) 日本消火器工業会 | 会長 遠山榮一 |
| 7 | (一社) 日本消火装置工業会 | 会長 橋爪 毅 |
| 8 | (一社) 日本消防ポンプ協会 | 会長 中島正博 |
| 9 | (一社) 日本消防放水器具工業会 | 会長 村上善一 |
| 10 | (一社) 全国避難設備工業会 | 会長 菊池 信 |
| 11 | (一社) 日本消防ホース工業会 | 会長 鷺根成行 |
| 12 | (一社) 全国消防機器販売業協会 | 理事長 白井 潔 |
| 13 | (一社) 日本消防標識工業会 | 会長 星野照生 |
| 14 | (一社) 日本消防服装・装備協会 | 会長 西川敏彦 |
| 15 | (一社) 日本内燃力発電設備協会 | 会長 今永 隆 |
| 16 | (一社) 日本照明工業会 | 会長 平岡敏行 |
| 17 | ガス警報器工業会 | 会長 高橋良典 |
| 18 | (一社) インターホン工業会 | 会長 坂田 徹 |

協会情報

- 19 「ゴムはく離試験機」について
消火・消防設備部消防設備課

おしらせ

- 24 有効期限を経過した受託評価品目

- 26 協会通信・ISO ニュース・
業界の動き・消防庁の動き

- 32 検定・性能評価・受託評価数量
(令和元年12月)

- 29 新たに取得された型式一覧

新年のご挨拶



日本消防検定協会
理事長 高橋 淳



令和2年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

消防関係者の皆様には、日頃から日本消防検定協会の業務につきまして格別のご理解とご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

昨年は、日本各地で台風の通過に伴う記録的な大雨や暴風によって、河川の氾濫、土砂の崩落、施設の倒壊などが多発し、甚大な被害が発生しました。

南海トラフ巨大地震、首都直下地震の発生も懸念されており、広域的な大規模災害への対応や備えを更に充実させることが大切です。

また、7月には、京都アニメーション第1スタジオにおいてガソリンを用いた放火火災が、11月には、沖縄の象徴である首里城の正殿等が焼失し、多くの尊い命、貴重な文化遺産が一瞬で奪われました。

このように近年は、今まで経験したことのない災害が多発しており、消防防災関係者の英知を結集して、人命の安全と被害の軽減に取り組んでいく必要があります。当協会といたしましても力を尽くしていきたいと考えております。

当協会の業務につきましては、平成28年12月に新潟県糸魚川市で発生した大火の教訓を踏まえて「屋外警報装置等の技術基準ガイドライン」が策定されましたことから、屋外警報装置の受託評価を開始いたしました。

住宅用防災警報器の設置率は、全国平均では82.3%となっておりますが、地域的な偏りがあります。

また、新築住宅に設置が義務付けられてから10年以上が経過し、電池切れや本体内部の電子部品の劣化も懸念されています。

当協会といたしましても、消防庁をはじめ、消防機関、消防関係団体、関係工業会の皆様と連携し、住宅用防災警報器の更なる設置促進、適正な維持管理、電池切れによる電池交換やセンサー等の寿命に伴う住警器そのものの交換の必要性等について広く情報の提供に努めるなど、住宅防火対策に積極的に取り組んで参りたいと考えております。

今後とも社会経済情勢の変化や多様化する災害事象を踏まえながら、当協会の有する消防用機械器具等の専門的な知識・技術を生かし、試験設備の充実や職員の資質向上に取り組むとともに、試験検査業務の着実な推進と信頼性の一層の向上に努めて参ります。

消防機関をはじめ関係業界の皆様には、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様方のますますのご健勝とご発展、本年が災害の少ない平穏な年となりますことを祈念して、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



消 防 庁
長官 林 崎 理



令和2年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係団体業務などに御尽力頂いており、心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

昨年は、台風やその影響による集中豪雨等の幾多の自然災害に見舞われ、また7月には京都市伏見区の爆発火災が発生したことなどにより、多くの方々が犠牲になりました。お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

また、災害現場においては、被災地の消防本部や地元消防団はもとより、被災状況により県内消防応援隊や緊急消防援助隊も総力を挙げて救急・救助活動等に当たって頂き、多くの人命を救助して頂きました。改めて皆さんのご活躍・ご尽力に敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。

振り返れば、平成は、阪神淡路大震災を受けた災害対策法制の見直し（平成7年）、緊急消防援助隊の法律への位置づけ（平成15年）、東日本大震災（平成23年）を受けた相互応援の強化や住民の円滑かつ安全な避難の確保など、我が国においては不可避である大災害の不幸な経験を経つつ、被害の最小限化を目指して不断の努力を積み重ねてきた時代でした。

新たな令和の時代におきましても、これまでの災害等による先人達の犠牲を決して無駄にすることが無いよう、今後発生が危惧される南海トラフ地震や首都直下地震等の大規模災害等に備え、減災への各種施策の一層の推進に取り組んでまいります。

また、昨年は、G20大阪サミット、ラグビーワールドカップ2019及び皇位継承式典等という大規模で歴史的な行事が続き、消防庁としても、関係府省庁及び各自治体・消防本部と連携し、安心・安全対策に取り組み、万全な消防・救急体制を整えたところです。

本年はいよいよ夏に2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。皆様方におかれましては、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりとそれを支える我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展のため、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



全国消防長会
会長 安藤 俊雄

輝かしい令和2年の新春を迎え、全国の消防防災関係者の皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。

高橋理事長をはじめ、日本消防検定協会の皆様におかれましては、消防用機械器具等の検定業務、性能評価業務、調査・研究等、多岐にわたる業務を通じて、消防行政の円滑な推進に多大なるご協力を賜り、深く敬意を表しますとともに、心より感謝を申し上げます。

昨年の災害を顧みますと、台風など記録的な豪雨や暴風の影響により、日本各地で河川の氾濫や土砂災害が発生し、甚大な被害が発生したほか、10月31日に発生した首里城の火災により、沖縄の歴史と文化の象徴という貴重な財産が失われ、火災の早期発見・初期消火の重要性について改めて認識することとなりました。

また、住宅火災による死者数は徐々に減少傾向にありますが、依然として65歳以上の高齢者の占める割合が高くなっており、今後、高齢化の一層の進展による死者数の増加も懸念されるところであります。

かけがえのない生命や財産に甚大な被害を及ぼす災害を教訓として活かし、被害を最小限に抑えるためには、景観にも配慮した高性能な消防用設備の普及促進や住宅用火災警報器の設置率の向上と定期的な点検、交換等の維持管理を推進することが極めて重要です。

本年は、いよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会という国際的な大規模行事が開催されます。あらゆる事態への対応とその備えが強く求められるなか、競技会場などの火災予防はもとより、テロ災害を念頭においた警戒体制の強化など、万全な災害対応体制で臨まなくてはなりません。

全国消防長会といたしましても、大会を無事成功させ、全世界に日本の安全性の高さを示すとともに、地域住民が安心して暮らせる社会の実現のために、全国の消防防災関係機関との連携をより緊密にし、消防関係法令の違反是正をはじめとした防火・防災安全対策や住宅防火安全対策などを積極的に推進してまいります。

結びに、日本消防検定協会の益々のご発展と、本年が災害のない平穏で幸多き一年でありますことを心からご祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶

NFES

一般社団法人 全国消防機器協会
会長 橋 爪 毅



令和2年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、消防庁をはじめ、日本消防検定協会並びに消防関係機関・団体の皆様には、当機器協会会員団体・企業等が格別のご高配を賜り心より厚くお礼申し上げます。

新しい年を迎え、機器協会会員一同、心を新たにし、信頼される消防機器の開発・改良と普及に取り組み、社会の安全の確保と安心の提供に邁進し、消防機器の適切な維持・管理の推進に努めて参る所存でございます。

昨今の災害状況は、火災のみでなく、甚大化、広域化する台風、集中豪雨などの自然災害が増加しており、消防機器業界としてもこれらに対する減災、防災に資する技術開発普及に努める必要があると考えています。

一方、消防庁では、政府の「インフラ輸出の拡大」の方針を踏まえた消防機器関係企業の海外展開の支援や、東南アジア地域の国を対象とした国際消防防災フォーラムの開催などに尽力をいただいております。これらの動向に対しまして、我々消防機器業界も積極的に対応を行うため、新たに「消防機器海外展開支援センター」を4月1日に設けることとしております。

また、平成24年度から日本消防検定協会の業務委託と併せまして実施しています、消防機器等に関する情報提供業務は、消防予防行政の最新の話題や消防機器等に関する情報等を、会員団体・企業等に提供し、大変ご好評をいただいております。今後も消防機器業界の充実・発展のため継続的に実施してゆきたいと考えております。

機器協会では、昨年定時総会において、「全国消防機器協会傘下会員団体・企業は、令和元年度から、自主的な取り組みとして、「消防機器業」と称すること。」を全会一致で決議しました。この「消防機器業」の取り組みについては、長年の課題であり、今後あらゆる機会をとらえ、PRして行くこととしております。

さらに、機器協会会員一同は、現状を取り巻く多種多様な課題等に対しても、消防機器業界の発展のためだけでなく、広く皆様に安全を提供するために、一致団結して対応してまいりたいと考えております。

引き続き、私ども消防機器業界に対しまして、変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申しあげまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本火災報知機工業会
会長 金 森 賢 治



令和2年の新春を迎え謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は総務省消防庁をはじめ日本消防検定協会及び関係各消防機関の皆様には当工業会並びに会員各社が格別のご指導・ご高配を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、元号が令和となって早々に、大変大きな勢力を持った台風による度重なる記録的な大雨、暴風の影響で、関東地方、東北地方等では、河川の氾濫、土砂による未曾有の災害に見舞われ、大変多くの方の尊い命が奪われました。

また、建造物の倒壊、建物への浸水、今まで経験した事のない長期間にわたる断水及び停電により、今なお、不自由な生活を余儀なくされている方が大勢いらっしゃいます。

昨年の台風19号は、一昨年の「西日本7月豪雨」に続き、2年連続で特定非常災害に指定されるとともに、激甚災害にも指定され、東日本大震災と同様に大変大きな自然災害となりました。

被災された方々に、心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様が一日でも早く平穏な生活に戻れるよう、お祈りいたします。

さて、今年の夏にはいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。開催期間中、天候に恵まれ、選手一人一人努力した苦勞が報われ、昨年のラグビーワールドカップの日本選手の活躍と同様に素晴らしい感動を与えてくれる事を期待いたします。

当工業会としては、設置から10年経った住宅用火災警報器については、万が一の為に早めの交換の広報展開を積極的に行っている所ですが、従来の広報展開である「10年たったら、とりカエル」に加え、新たに「自宅の住宅用火災警報器の交換診断の推進」を追加し、住宅用火災警報器には寿命があること、寿命とはどういう事か、それはどうやって知ることができるのか等について理解していただき、寿命がきたら適切に交換をしていただくために非常に分かり易い「住宅用火災警報器交換診断シート」を作成し、皆様の自宅に設置された住宅用火災警報器の交換診断を行っていただくこととしています。

また、東京オリンピック・パラリンピックはもとより、海外からの外国人観光旅客、高齢者や障がい者にも適したユニバーサルデザインを取り入れた光警報装置のより一層の普及に努め、社会に役立つ製品の普及の取組を積極的に進め、火災から大切な国民の生命・財産を守るとともに、安全・安心のため更なる努力をしてまいり所存でございます。

本年も皆様方の変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消火器工業会
会長 遠山 榮一



新春を迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

旧年中は日本消防検定協会をはじめ総務省消防庁、各消防関係機関の皆様、並びに関係各位より当工業会ならびに会員各社への温かいご指導とご厚誼を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は30年余り続いた「平成」が幕を下ろし、5月1日に皇太子殿下が新天皇陛下に御即位され、元号が「令和」に改元されました。

改元後の消防防災に関連する出来事としては、7月に京都市内にあるアニメ制作会社の建物内に侵入した男が、持ち込んだガソリンを撒いて放火し、多数の死傷者を出した事件が発生しました。また、10月下旬には沖縄県の文化財である首里城が、火災により消失しました。消防機器業に携わるものとして、防火のあり方に対して改めて考えさせられる出来事となりました。

また、9月上旬に発生した台風15号は、関東に上陸した台風では観測史上最強クラスの勢力で千葉県房総半島に上陸し、家屋、建物、電柱、送電用の鉄塔などを破壊して、電気・水道等のライフラインに長期間に渡り大打撃を与えました。さらに、10月中旬に発生した台風19号は、強い勢力と暴風雨を伴って関東に上陸し、東日本の多くの河川で氾濫と洪水をもたらし、家屋・建物・鉄道車両等の浸水や多数の犠牲者を出した大災害となりました。

このように、昨年を振り返ると、特に年後半において大きな事件・自然災害に見舞われた一年でありましたが、本年は災害の少ない、穏やかな年となりますことを切に願う次第です。

消防行政関係では、昨年10月より延べ面積150平方メートル未満の飲食店に対しても消火器具の設置、点検・報告の義務化が施行されました。当工業会においても引き続き、昨年と同様にホームページにて詳細をご案内しております。さらに、旧規格消火器の設置特例期間終了が残り2年余りに迫っていることから、昨年と同様に新規格適合品との速やかな交換と、不要となった消火器のリサイクルの促進をホームページとチラシ配布にて詳細をご案内しているところです。

また、現在、火災時に誰もがより消火しやすいことを目的に、消火能力を著しく向上させた高性能型消火器が市場に流通しております。高性能型消火器については、当工業会ホームページにて性能概要を動画等でご案内しておりますので、ご購入の際には、是非、参考としてご覧下さい。

当工業会では、本年も引き続き、ユーザーの目線に立った安全・安心な製品の開発に努め、会員一同が更なる品質の維持向上に取り組んでいく所存ですので、関係各位のご理解とご協力の程、よろしくお願いいたします。

結びに、日本消防検定協会をはじめ消防関係機関の皆様のご健勝とますますのご発展を祈念し、新年のご挨拶といたします。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消火装置工業会
会長 橋 爪 毅



令和2年の新春を迎え、皆様に謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

旧年中は、各消防関係機関の皆様には、一方ならぬご厚情を賜り誠にありがとうございました。

本年も引き続き、消防防災分野の発展をめざし努力を致す所存でございますので、ご指導・ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年は、米中貿易摩擦の長期化・世界経済の減速や日韓関係の悪化など、今後の動向に注視が必要となる変化の多い年でありました。また、自然災害では、九州北部豪雨や大型台風による関東・東北地域の停電・暴風や豪雨等で甚大な被害が発生し、観光や農業、畜産業を生業とする方々にとって、大変な日々を過ごすことになりました。被災地の方々にお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧・復興、心の安寧を願ってやみません。

明るく嬉しいニュースとして、新天皇陛下が皇位継承により、5月に平成から令和へと改元が行われ、10月に天皇陛下が即位を内外に宣言されました。また、ラグビーワールドカップ日本大会で史上初めて8強入りを果たした日本代表は、世界を驚かすとともに、多くのファンに夢と感動を与えてくれました。さらに、ノーベル賞では、吉野彰氏がリチウムイオン電池の技術開発の貢献により化学賞を受賞されたことは、私達の誇りとするところであります。このことは、今後我が国が、グローバル化に対応するためのイノベーションの基礎となるべく研究分野への大きな希望の光であり、道しるべとなるものと思います。

さて、昨年の工業会活動を振り返ってみますと、従前からの事業に加え、「消火設備に関する勉強会」、「住宅防火対策推進協議会関係事業における住宅用スプリンクラー等の啓発活動」、「消火設備の設置及び技術基準」、「泡消火設備点検実務マニュアル」および「泡消火設備DVD」の発刊を行ない、防災事業に携わる会員の意識向上、技術レベル向上への後方支援をさせていただきました。

今後とも、各消防関係機関の皆様のお力添えを頂きながら、会員一同、より活発な工業会活動を通して公益性を維持しつつ、会員サービス事業と両立させ、業界を代表する団体として社会の安心・安全と国家の安寧に貢献できますよう、各事業の充実化に努めて参りたいと考えております。

結びに、日本消防検定協会様を初め、各消防関係機関の皆様のみずみずのご発展とご健勝を祈念致して、新年のご挨拶とさせていただきます。

本年も何とぞ宜しくお願い申し上げます。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防ポンプ協会
会長 中 島 正 博



令和2年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

日本消防検定協会様をはじめ、消防関係の皆様には、平素より当協会の運営につきまして格別のご理解、ご高配を賜り、誠に有り難く厚く御礼申し上げます。

昨年は日本各地で台風等による被害が数多く発生しました。被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、被災地の1日も早い復興・復旧をお祈りいたします。

近年の災害には「想定外」という言葉がよく使われます。様々な環境下で使用される消防機器について多様化する災害に対応する特別な機能を有する機器や多機能な機器の開発・普及にも努め、より安心、安全に、より効果的に活動頂けるよう努めることが当協会の責務と認識するところでございます。

さて、ご承知のとおり、消防ポンプ自動車等の消防車両の製造は、秋から年末、年度末に掛けて最盛期を迎え、労働時間の偏り等が問題となっておりました。

消防ポンプの製造者として、作業の平準化など可能な限りの対策を進めておりますが、それにも限界が有り、各社では消防車両の供給について危惧を抱いているところです。

そのため、昨年、消防庁から発出された契約の早期化、適正な納期の設定等に係る通知に大いに期待しているところです。今後の展開に期待するとともに、政府が推進する働き方改革を守りながら、消防車両等の供給に影響しないよう関係省庁のお知恵をお借りしながら、適切に対処していきたいと考えております。

結びに、当協会会員一同、一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げますと共に、日本消防検定協会様をはじめ、各関係機関の皆様にとりまして本年が輝かしい年になりますよう、ますますのご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防放水器具工業会
会長 村上 善一



新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は皆様にたいへんお世話になりました。ここに感謝申し上げますとともに、本年も消防関係業界の皆様には引き続きご指導ご鞭撻を頂けますようお願いいたします。

昨年の台風15号、19号が本州に上陸しこれまでの記録を超える大雨と突風をもたらした多くの被害が出てしまいました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

災害もさることながらここ数年東京を襲う灼熱化のため、ついには本年夏に開かれる東京オリンピック2020のマラソンと競歩競技が札幌での開催となりました。身近に起こりうる災害に備える様々なインフラ整備や対策器具の準備が早急に要求されていると実感しております。

特に土砂災害で被害に遭われた家屋やビルを目にするたびに、屋内消火栓を消火以外の使用例として復旧に向けた活用方法が模索できないか、引き続き工業会内でこの可能性につき議論と研究をして行きたいと思っております。

また、昨年はパリのノートルダム大聖堂や国内では沖縄県首里城といった世界遺産の大火災が世間を騒がせました。さて、本工業会では大型倉庫での火災を契機に、一般財団法人日本消防安全センターからの研究助成を受け屋外消火栓の機能向上を研究しております。

屋外消火栓が重要文化財の消火設備として使われる事例が多いことから、まさにタイムリーな調査研究としてその責任を実感しているところです。初期消火として簡単に操作できるように、使用者がパニック状態に陥っても簡単に手順通りに使用できるように、また繰り返しの訓練にも収納しやすい装置への改善がまさに必要であると思っております。

私ども工業会は、一般社団法人日本消防ホース工業会と密接に連携を取り、保形ホースの物性面での劣化調査結果を行っているところですが、やはりある程度の年月が経過すると操作時に障害を招く漏水事案が見られることが分かって来ました。保形ホースの点検方法や交換時期の啓蒙方法なども含め、引き続きこれらの対応に努めて行く所存です。

終わりに関係各位の皆様のご健勝とご発展を祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 全国避難設備工業会
会長 菊池 信



新年あけましておめでとうございます。

令和2年の新春を寿ぎ、一般社団法人全国避難設備工業会を代表いたしまして、心からお祝辞申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁様を始め各関係消防機関の皆様、報道関係の皆様方には、当工業会及び会員各社に、御指導、御高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

例年、この年頭の御挨拶で前年の災害についてお見舞い申し上げますが、昨年は一昨年以上に大きな自然災害が多発した年でした。台風15号により千葉県を中心に4万棟を超える家屋の破損や停電が発生し、息つく間もなく、台風19号及び21号による大雨により浸水家屋だけで5万棟を超える大災害が発生しました。被害に遭われた方々には衷心よりお見舞い申し上げます。もはや日本中どこにいても災害に遭遇する、それに備える行動が重要だということをあらためて認識した次第です。

一方、火災に関しては首里城の火災がありました。ここで人的な被害がなかったのは幸いではありましたが、7月に起きた京都アニメーションの火災におきましては30名以上の犠牲者が出てしまいました。設置義務が無い建物とは言え、もし避難器具が設置されていればもしかしたら何人かの命は救えたかもしれないと思うと慚愧に堪えません。

本年は上記の事件を踏まえ、もう一度避難器具のあり方を考え、人命を救うことを第一義とした設置方法などを考えていきたいと思っております。

また、東京オリンピック・パラリンピックを控え、外国からの訪問者が増えることから、音声による操作方法の伝達に取り組み、展開していきたいと考えております。具体的にはQRコードを使用した取扱説明書を作成し、スマートフォンなどで案内できるよう図ってまいります。当然のことながら、取扱説明をよりわかりやすく、また簡便にすべく努力を工業会会員一同努力してまいります。

令和の年号になり、本年こそ大きな事件や災害がないようお願い、また本年も、関係行政機関及び消防関係業界の皆様、並びに会員各位が御健勝で、ますますの御発展、御繁栄されますことを祈念いたしますとともに、当工業会に対し引き続き御支援、御協力を賜りますようお願い申し上げます、新年の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

一般社団法人 日本消防ホース工業会
会長 鷲 根 成 行



令和2年の新春を迎え、皆様に謹んで新年のお慶びを申し上げます。
旧年中は、日本消防検定協会をはじめとして総務省消防庁、各消防関係機関の皆様ならびに関係各社より当工業会の運営につきまして、ひとかたならぬご指導、ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

本年度は、オリンピック・パラリンピックが東京で開催され多くのお客様が海外から来日されます。海外のお客様にも日本の安全・安心を実感していただけるよう当工業会も関係機関および関係工業会と連携し進めてまいりたいと考えております。当工業会の役割を認識し、更なる安全・安心な製品の提供に邁進していきます。

一昨年、昨年と近年経験したことがない災害が発生し多数の死傷者を伴う甚大な災害となりました。また、全国各地で温暖化に伴うであろう異常気象、大型台風の襲来、竜巻、集中豪雨等の自然災害が多発し、災害に対する国民の恐怖心が増大しており、地震発生への危惧等も含め、災害に強いインフラの整備や発生後の早期復旧策等国民の安全、安心をまもる消防・防災体制のさらなる強化の必要性を強く感じる年となりました。

このような中、当工業会の役割もさらに増大していると感じております。

その対応としてひとつは、より安全、安心な製品を提供すべく、消防用ホースの品質向上に努め、不具合件数の削減を目指して参ります。「自主表示」の型式取得試験、型式適合検定、また、結合金具の装着部につきましても屋内消火栓設備等に使用される認定評価と同様に日本消防検定協会の品質評価を受け、今後も皆様に安全・安心な製品を提供すべく様々な品質向上施策を実施してまいります。

もうひとつは、火災、自然災害の大規模化や、地震災害等に対する当工業会への多様なニーズに対し、新技術の導入や技術の融合により、より安全・安心な高機能ホースの提供を目指し、当工業会の信頼性を高め国民や消防機関の皆様にも有益でなくてはならない団体になるよう研鑽してまいります。

最後になりましたが、本年も日本消防検定協会の皆様をはじめ総務省消防庁ならびに消防行政各位の益々のご発展、ご活躍を祈念し、あわせて引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。以上

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 全国消防機器販売業協会
理事長 白 井 潔



令和2年の新年を迎え、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

旧年は総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会並びに全国の消防関係団体の皆様には日頃より当協会及び協会会員に対しましてご指導・ご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

旧年5月の全消販定時総会時の役員改選にて、氏家英喜氏の後任として理事長職の大任を預かることとなりました。今後とも精進努力いたしてまいりますので宜しくお願い申し上げます。

さて、昨年は陽春の中、平成から令和へと静かに新たな時代がスタートしましたが、8月には九州北部豪雨、9月の台風15号、10月の台風19号、21号等の極端気象による大きな災害が発生した一年となってしまいました。いままでに経験したことがない、経験や知識が通用しない局地的な豪雨等、地域の風水害対策に対して大きな警鐘を発信した一年でした。被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

点検業務を行う事業所が主体となっている全国で唯一の団体である全消販は、平成6年に消防業界でいち早く協会内に優良な点検業務実施者の発掘と資質の向上を図るため「優良事業所認定」を行い、会員の適正な点検業務を通じて消防用設備等の維持管理の確保に励んでまいりました。

11月には名古屋市において全消販合同会議を開催しました。講演会では総務省消防庁予防課長から「予防行政（課題と対応）」と題してご講演をいただくとともに、愛知県防災安全局、名古屋市消防局、愛知県消防設備安全協会役員との情報交換会を開催しました。当会議には北海道から沖縄まで全国から会員が集い、盛会裏に終わることができました。

全消販は、消費者に最も近い立場から、多様化する社会環境において消防機器の設置、設備点検等の重要性の啓発活動を展開すると共に、「身近な生活における安心・安全の確保」について協会会員が一致協力して地域の発展に積極的に対応する所存です。

今年も、総務省消防庁をはじめ日本消防検定協会、消防行政関係並びに消防防災関係団体各位の力強いご支援を心よりお願いする次第です。年頭にあたり関係各位及び会員の皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本消防標識工業会
会長 星野 照生



令和2年新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。

天皇陛下の即位礼正殿の儀も、各国要人をお迎えして厳かにとりおこなわれました。厳粛且つ華やかな式典は、我が国の新たな時代を世界に告げるものでございました。

私ども日本消防標識工業会も、会員一同心も新たに、新時代の消防行政に協力し、業界の発展に寄与すべく努力して行く所存でございます。本年も消防検定協会、消防設備安全センター、を始め各機関に協力し、全国消防機器協会の一員として、精励致しますので、何卒宜しく願い申し上げます。

一方で、一昨年西日本大水害等々の災害に続き、昨年も立て続けに日本列島を襲った超大型台風（15・19・21号等）による前例の無い強風被害、繰り返し襲来した豪雨による洪水・土砂災害と、立ち向かう気力を奪うような連続災害に再び見舞われました。日本消防標識工業会内でも大きな被害に見舞われた会員があり、こちらへの支援とともに全国の被災者の方々へも出来る限りのお手伝いをと、対策を協議しているところでございます。

また昨年10月末には、華麗に再建されたばかりの沖縄／首里城が全焼するというショッキングな火災も記憶に新しいところでございます。

当工業会と致しましては、これら各種の火災・災害に対処すべく、今後とも消防・防災行政に協力し、国民の皆様の安全・防災に少しでもお役に立てますよう、製品の開発・改良・普及に努め、防火防災行政に一層の協力を致す所存でございます。

今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催され、各方面の準備作業も進んでおられるようですが、当日本消防標識工業会と致しましても、消火器標識に図記号（ピクトグラム）を採用し、自主認定基準に準じた材料・工程で製造した製品を「推奨品」として用意し、各方面に採用をお願いしております。特に中輝度蓄光式の「図記号入り消火器標識」は、いざと言う際に効果的にその役目を果たすものと考えております。

昨年秋に開催されました、ラグビーワールドカップにおきましても、多くの外国人観戦者が来日し、試合観戦とともに観光も楽しまれ、日本の秋を過ごして行かれました。オリンピック・パラリンピック開催期間中には、更に多くの外国人の来訪が見込まれます。また国内各地からも東京を中心とする大会会場、周辺観光地等に多くの方々を訪れる事と思われまます。

このような中、当工業会会員企業が生産する「蓄光式避難口誘導標識（消防設備安全センター認証品）」や「蓄光式消火器標識（図記号入り・当工業会推奨品）」は災害発生時の被害拡大を抑制するため有効な手段であります。これらの普及に努めるとともに、更により良き製品の開発・普及に努力いたして行きますので、本年も一層のご指導・ご鞭撻を皆様をお願いして、ご挨拶に代えさせていただきます。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶




一般社団法人 日本消防服装・装備協会
会長 西川 敏彦



令和2年の輝かしい新春を迎え、謹んで皆様へ新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会及び各消防関係機関・団体の皆様には、平素より当協会の運営並びに会員各社へのご厚情を賜りまして厚く御礼申し上げます。本年も引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、昨年は、日本各地で台風による大雨や強風などの自然災害が相次ぎ、自然の猛威の恐ろしさを改めて痛感させられました。被災地の方々には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

そのような中で、時代が平成から令和に変わり、日本の歴史と文化を垣間見て、さらにはラグビー日本代表チームのワールドカップでの活躍に勇気をもらい、「OneTeam」の団結力の素晴らしさに感動させられたのも束の間、世界遺産である沖縄県の首里城が火災により焼失してしまいました。私たちの「消防設備業」の仕事は、「国民の生命、身体及び財産を火災から守り、予防する」事を目的としています。特に、当協会は、火災などの災害現場で、消火活動等に従事される消防職員・団員の皆様が装着する防火衣、活動服、防火帽、防火靴及び防火手袋等を製造・販売等を行う会員から構成されています。消防職員・団員の皆様が、災害現場で安全かつ迅速に活動するためには、これらの消防服装・装備製品が火災等の輻射熱への耐熱性や防水性に優れ、着心地や柔軟性等も確保しなければなりません。最近では、ヒートストレス対策も重要な課題となっています。そのため、当協会では、市販の防火服等がISO基準及び総務省消防庁が定めたガイドライン基準を満足しているかの自主管理制度を構築し、当該基準を満足していると認められた防火服等には認定マークを表示することが出来ることとしております。

当協会としましては、本年も引き続き、安全・安心な消防服装・装備製品の品質の確保に努め、特に本年は東京オリンピック・パラリンピック開催の年であり、多くの外国人の方が日本を訪れるため、そうした方々の安全・安心も確保できるよう会員一同が更なる品質の向上に取り組んでいく所存でございます。

結びに、日本消防検定協会をはじめ消防関係機関の皆様への益々のご発展とご健勝を祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶



一般社団法人 日本内燃力発電設備協会
会長 今 永 隆



令和2年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。消防関係者の皆様には、日頃から当協会の業務につきまして格別のご理解とご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

新しい年を迎え、当協会会員一同、心を新たに、自家発電設備の信頼性及び安全性の向上に取り組み、社会の安心に寄与するとともに、自家発電設備の適切な供給及び保全の推進に努めてまいります。

さて、昨年を振り返りますと、ラグビーワールドカップでの日本代表選手の輝かしい活躍、リチウムイオン電池を開発した吉野彰氏のノーベル化学賞受賞など、日本国民に感動と勇気、希望を与えてくれる明るい話題がありました。

一方で、大雨による災害が多い年でもございました。8月の九州北部を中心とした集中豪雨、関東地方を直撃した大型台風15号、19号の襲来は記憶に新しいのではないかと思います。

特に被災後の復旧作業、消防防災等の活動の任に懸命に当たっておられる消防関係者の皆様には、深く感謝を申し上げますと共に敬意を表します。

本年が災害の少ない穏やかな年となりますことを切に願う次第であります。

また、経済状況に目を移すと、昨年日本経済は底堅い内外需を背景に緩やかな回復基調が続いておりますが、昨今の米中の貿易摩擦問題やイギリスのEU離脱問題など海外情勢に対する懸念もあります。

一方、自家発電設備を巡る状況においては、政府が打ち出した国土強靱化政策、2020年に開催されるオリンピック・パラリンピックに向けたインフラ等の整備を中心に自家発電設備の設置の需要が見込まれ、本年も底堅く続くものと考えております。

当協会としては、災害対応能力の強化のために自家発電設備の更なる普及促進、導入容量の拡大に努め、防災減災に寄与できるよう事業を進めて参りたいと思います。

結びに被災地の一日も早い復興と、被災者の皆さまが明るい未来への希望がもてる日常をできる限り早く取り戻されることを心からお祈り申し上げますと共に貴協会をはじめ消防関係機関の皆様のご健勝とますますのご発展を祈念致します。今後も、引き続き温かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶といたします。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 日本照明工業会
会長 平岡敏行



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。皆様におかれましては、良き新年を迎えられたことと心からお慶びを申し上げます。

(一社)日本照明工業会は照明器具やランプなど照明機器の製造事業ならびにその関連事業を生業とする会員で構成される団体です。昨年には照明成長戦略 Lighting Vision2030を発表し、「あかり文化の向上と地球環境への貢献」をビジョンに掲げて、地球環境に配慮したやさしい“あかり”を普及させることで、より安全で快適な生活環境実現することに努めています。そして、政府の成長戦略への取り組み、国内のステークホルダーへの情報発信、交流、交渉を通じて、公平で健全な照明市場を形成し、照明業界の発展に貢献できるよう活動を進めております。政府が提唱しているサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合する超スマート社会 Society 5.0の実現に向けた「Connected Industry」という新たなコンセプトのもと、産業界全体が大きく変化しようとしています。照明事業ではストック市場でのLED化率アップを目指すと共に、「光の質の向上」と「つながるあかり」による新たな高付加価値製品の創出がこれからの重要課題となります。様々なモノ、コトにつながるインテリジェントなあかり CSL^{※1}と、人にやさしい、安全・快適・便利なあかり HCL^{※2}の普及を通して、新しい照明価値創出と地球環境への貢献を目指します。

これらの活動を、関係省庁・関係団体・会員各位のご協力を得ながら推進して参りたいと思いますので、本年も皆様のご支援ご協力の程よろしく願いいたします。

結びになりますが、本年も皆様のご健勝を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

※1 CSL : Connected Smart Lighting

※2 HCL : Human Centric Lighting

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



ガス警報器工業会
会長 高橋良典

旧年中は全国のご事業者の皆様、消防関係の皆様には、ガス警報器・CO警報器等の普及促進に向けて、格別なご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は熊本、新潟における地震や台風15号・19号による被害、大停電など、多くの災害が発生しました。被害にあわれました皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

ガス警報器工業会は、「ガス警報器の普及を通じて、国民の暮らしの安全・安心に貢献する」ことを基本理念として、1975年12月に設立されました。ガス警報器は、1969年2月に、世界で初めて半導体式センサを用いたLPガス警報器が誕生し、本格的な普及が始まりました。その後、都市ガス用警報器やCO警報器等が開発され、現在は、ガス消費世帯数の約57%で警報器が使用されています。また、近年では、CO中毒事故防止のための業務用換気警報器や利便性向上を狙いとした電池式ガス警報器も開発されています。

ガス事故の発生件数は、この40年間で着実に減少して参りました。これは官民が一体となって保安活動を進め、ガス警報器等の安全機器普及に努めた結果であると思います。しかしながら、最近では業務用厨房や、学校・ホテル等でのCO中毒事故が継続して発生し、また、一般消費者先での事故も高止まり傾向となっています。多くのガス事故はガス警報器、CO警報器が未設置のところで起きています。ガス警報器は、漏洩ガスを直接検知して警報する消費者を守る最後の砦です。またガス警報器はマイコンメータと連動することで、不在時でもガス事故を未然に防ぐことができ、その事故防止効果を高めます。

さらにCO検知機能を付加した警報器では、くん焼火災等で発生するCOを検知することで火災を早期に検知することが報告されており、火災による死者の約40%を占めるCO中毒・窒息の防止に効果があるものと認識しております。

当工業会は、ガス警報器が国民の安全・安心の一助となるよう、ガス警報器のさらなる普及を図り、ガス事故の撲滅に寄与して参ります。「付けていて当たり前」の文化の構築を目標に、ガス警報器工業会の事業推進に対し倍旧のご支援、ご指導を引き続き頂きますようお願い申し上げます。

検定協会だより 令和2年1月

新年のご挨拶



一般社団法人 インターホン工業会
会長 坂田 徹

令和2年の新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

旧年中は、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会並びに消防関係機関・団体の皆様には、当工業会の活動に格別のご指導、ご高配を賜り心より厚く御礼申し上げます。

新年を迎え当工業会会員一同、心を新たに消防防災分野の開発・普及に取り組み、「安全」「安心」「つながり」のある社会の実現に向け、より一層の努力をいたす所存でございますので、宜しく願い申し上げます。

昨年は、5月に新天皇陛下が即位され、新元号「令和」に改元、平成から令和へ新時代の幕開けの年となりました。日本で初開催のラグビーW杯では日本の躍進と、開催国として運営や様々な国の方々の受け入れも絶賛されました。本年の東京オリンピック・パラリンピックでも成功を収めるものと思います。

一方、一昨年に続き自然災害が多い年でもありました。台風、大雨の列島直撃で広範囲の地域で風水害が発生し甚大な災害となりました。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

また、生活の身近な場所で事件が発生するなど、社会生活に不安が残る年でもありましたが、インターホンの録画機能がクローズアップされ、当工業会のインターホン普及活動が社会にお役立ちしていることを改めて認識いたしました。

当工業会では、共同住宅用防災システムの普及と適切な時期での機器更新に取り組んでおり、戸外表示器の告示基準への適合性の確認を戸外表示器認定制度として実施しております。また、糸魚川市大規模火災を機として消防庁から昨年発出された「屋外警報装置等の技術基準ガイドライン」への対応を行い、昨年10月からインターホン自主認定制度の対象といたしました。これは、インターホンと住宅用火災警報器を連動させ、屋内で火災が発生した際、玄関子機から屋外へ警報音と音声で火災発生を知らせるものです。ガイドラインに対応した機器を普及させることで「安全」「安心」な社会の実現へ近づくものと考え、浸透を図ってまいります。

本年も、総務省消防庁をはじめ、日本消防検定協会並びに消防関係機関・団体の皆様の変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご発展とご健勝を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



「ゴムはく離試験機」について

消火・消防設備部消防設備課

消防用ホース及び消防用吸管のゴム及び合成樹脂の品質を試験する為に使用する、ゴムはく離試験機を更新いたしましたので紹介いたします。

1 概要

消防用ホースの技術上の規格を定める省令（平成25年総務省令第22号）第7条及び第19条に規定されているゴム及び合成樹脂の品質並びに消防用吸管の技術上の規格を定める省令（昭和61年自治省令第25号）第5条に規定されているゴム及び合成樹脂の品質を確認するための試験機です。また、消防用ホースの技術上の規格を定める省令第8条及び第20条に規定されている内張りについても確認することができます。

消防用ホース及び消防用吸管のゴム及び合成樹脂の品質の確認においては、JIS K 6251で定める方法により採取したダンベル状3号形試験片を用いて、JIS K 6251の切断時引張応力及び伸びを測定した場合に、引張応力及び伸びが規定値以上かを確認しております。

消防用ホースの内張りの確認では、ジャケットと密着強さにおいて、ジャケットのたて糸及びよこ糸の各方向について、JIS K 6256-1の布とのはく離強さを測定した場合に、JIS K 6274に基づき解析されたピークの値が規定値以上であることを確認しております。

2 ゴムはく離試験機の構成

ゴムはく離試験機は、本体（負荷容量500N）、つかみ具、エアコンプレッサー、変位計、ロードセル、制御用P C、レーザープリンター、機器固定用ベルト、作業台で構成されています。

①本体

試験機本体は、2本のボールねじを有した2本柱構造です。操作パネル、ロードセル、変位計、クロスヘッド、各種安全装置等で構成されています。本試験機では、試料片が飛んでくることを防ぐための飛散防止カバーを附属しました。



写真-1 ゴムはく離試験機の外観

②つかみ具及び③エアコンプレッサー

本試験機は、自動つかみ具を空気式に変更し、引張試験時に試験片の厚みが減少しても確実に保持できるようになりました。

④変位計

試験試料が伸びた距離を測定する機器です。アームの動きに応じて操作パネルに表示します。

⑤ロードセル

試験試料にかかった試験力を測定するため機器です。試験力は操作パネルに表示します。

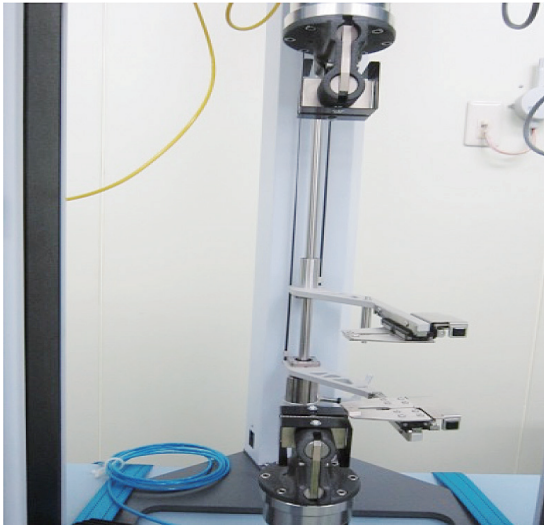
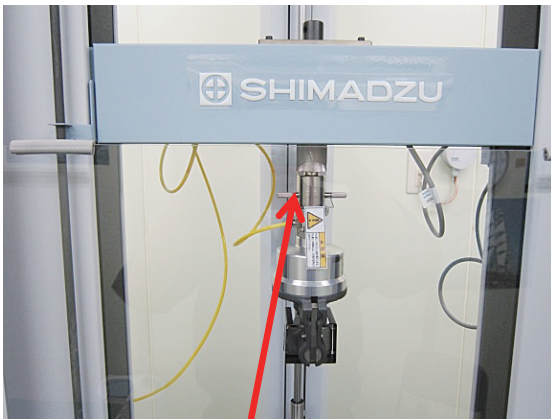


写真-2 つかみ具の外観及び変位計



写真-3 エアコンプレッサー



ロードセル

写真-4 ロードセル

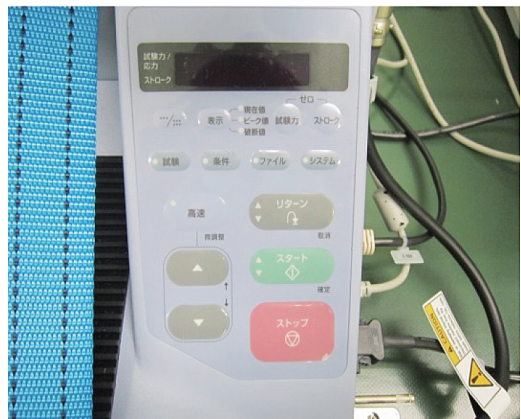


写真-5 操作パネル

⑥制御用PC及び⑦レーザープリンター

制御用PCより試験条件を設定し、制御及びデータの解析を行うことができます。データ採取速が1m/sec以下、オートチューニング機能により、試験片に最適なパラメータを自動的に設定が可能です。また、プレビューでレポートを確認でき印刷することができます。

⑧機器固定用ベルト及び⑨作業台

本試験機を設置でき（高さ640mm）、確実に固定できるものです。



写真-6 制御用PC及びレーザープリンター

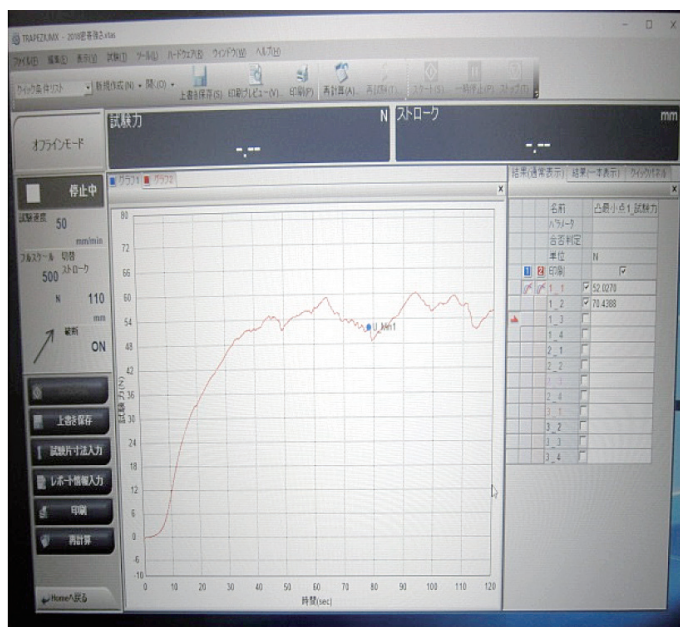


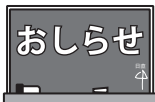
写真-7 各種試験条件の設定及び試験結果の表示

3 ゴムはく離試験機の仕様

ゴムはく離試験機の主な仕様を表-1に示します。

表-1 ゴムはく離試験機の主な仕様

項目	仕様
装置の大きさ	653mm (幅) × 520mm (奥行) × 1603mm (高さ)
装置の質量	約 85kg
装置電源	単相 50/60Hz 100/120/220/240V 切り換え式 1.2kVA
最大負担容量	10kN
負担方式	バックラッシレス精密ボールねじ駆動によるダイレクト・高精度定速ひずみ制御方式
試験力測定精度	ロードセル定格容量の 1/1 ~ 1/500 の範囲においてレジデンス対応し、表示試験力の ± 1 % 以内
クロスヘッドの速度範囲	0.001 ~ 1000mm / min
クロスヘッド最大リターン速度	1500mm / min
クロスヘッドの測定精度	± 0.1%
クロスヘッドの位置検出精度	± 0.1%
変位計の測定方式	ロータリーエンコーダによるポジションカウント方式
測定分解能	10.16 μm
測定精度	± 100 μm または変位量の ± 0.2%



有効期限を経過した受託評価品目

【消火器加圧用ガス容器】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の 終期日
品評容第4～1号	H4.7.29	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第4～2号	H4.8.6	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第4～3号	H4.8.25	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第19～2号	H19.8.2	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第19～3号	H19.8.2	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第19～4号	H19.8.2	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第19～5号	H19.8.2	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第20～1号	H20.5.15	東京都足立区青井三丁目12番15号	日本炭酸瓦斯株式会社	R1.10.31
品評容第56～1号	S56.12.28	埼玉県さいたま市岩槻区掛7915番地	株式会社旭製作所	R1.10.31
品評容第56～2号	S56.12.28	埼玉県さいたま市岩槻区掛7915番地	株式会社旭製作所	R1.10.31
品評容第56～3号	S56.12.28	埼玉県さいたま市岩槻区掛7915番地	株式会社旭製作所	R1.10.31
品評容第56～4号	S56.12.28	埼玉県さいたま市岩槻区掛7915番地	株式会社旭製作所	R1.10.31
品評容第59～2号	S59.9.27	東京都足立区青井三丁目12番15号	日本炭酸瓦斯株式会社	R1.10.31
品評容第61～9号	S61.7.28	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評容第61～10号	S61.7.28	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31

【蓄圧式消火器用指示圧力計】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の 終期日
品評圧第10～2号	H10.8.5	東京都品川区南大井六丁目11番9号MYハイツ2F	中西計器株式会社	R1.10.31
品評圧第11～2号	H11.6.15	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評圧第12～1号	H12.2.25	東京都品川区南大井六丁目11番9号MYハイツ2F	中西計器株式会社	R1.10.31
品評圧第15～1号	H15.12.1	東京都港区白金台5丁目17番2号	ヤマトプロテック株式会社	R1.10.31
品評圧第18～1号	H18.1.10	埼玉県さいたま市岩槻区掛7915番地	株式会社旭製作所	R1.10.31
品評圧第18～3号	H18.8.8	大阪府枚方市招提田近三丁目5番地	株式会社初田製作所	R1.10.31
品評圧第19～1号	H19.2.23	東京都港区白金台5丁目17番2号	ヤマトプロテック株式会社	R1.10.31
品評圧第19～2号	H19.3.15	東京都港区台場二丁目3番1号	日本ドライケミカル株式会社	R1.10.31

【消火器の容器弁】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
品評弁第1～2号	H1.7.14	大阪府枚方市招提田近三丁目5番地	株式会社初田製作所	R1.10.31
品評弁第57～16号	S57.3.15	東京都港区白金台5丁目17番2号	ヤマトプロテック株式会社	R1.10.31
品評弁第63～1号	S63.8.8	大阪府枚方市招提田近三丁目5番地	株式会社初田製作所	R1.10.31

【消火設備用消火薬剤】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
品評剤第10～2号	H10.4.10	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評剤第10～6号	H10.11.25	東京都千代田区内神田三丁目4番15号	株式会社丸山製作所	R1.10.31
品評剤第11～2号	H11.12.17	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31
品評剤第13～1号	H13.4.10	大阪府枚方市招提田近三丁目5番地	株式会社初田製作所	R1.10.31
品評剤第17～1号	H17.10.18	神奈川県茅ヶ崎市下町屋一丁目1番1号	宮田工業株式会社	R1.10.31

【非常警報設備・スピーカー】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
認評放第26～24号	H26.11.19	東京都江東区枝川2丁目16-5	株式会社 エフ・ピー・エス	R1.11.18
認評放第26～25号	H26.11.19	東京都江東区枝川2丁目16-5	株式会社 エフ・ピー・エス	R1.11.18

【非常警報設備・増幅器及び操作部】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
認評放第16～15号	H16.12.3	大阪府門真市大字門真1006番地	パナソニック株式会社	R1.12.2

【非常警報設備・遠隔操作器】

型式番号	承認年月日	住 所	依 頼 者	有効期限の終期日
認評放第16～16号	H16.12.3	大阪府門真市大字門真1006番地	パナソニック株式会社	R1.12.2

上記の機械器具等が、型式に係る有効期限を経過しましたのでお知らせします。

上記の機械器具等は、有効期限の終期日以降、当該型式に基づく製品について新たに当協会の型式適合評価を受け、合格表示が行われることはありません。

既に設置され又は型式適合評価を受け合格表示が行われた上記の機械器具等については、型式適合評価時において基準への適合性が確認されており適正な設置及び維持管理がされていれば、当該有効期限の経過による使用への影響はありません。

■■業界の動き■■

- 会議等開催情報 -

◆（一社）日本消火器工業会◆

○第6回技術委員会

（令和2年12月11日）

- ・住宅用消火器について
- ・新製品（高性能型）の別表追加について

○第9回企業委員会

（令和2年12月13日）

- ・消火器の申請・回収状況
- ・消火器リサイクル推進センターからの報告
- ・新規 POPs 含有廃棄物の排出・処理状況のヒアリングについて
- ・小規模飲食店に設ける厨房用自動消火装置等のあり方検討部会報告
- ・新品シール未貼付に関する申請について
- ・廃棄証明書の発行について

○第5回理事・総務合同会議

（令和2年12月16日）

- ・定例報告
- ・令和元年度台風19号等による被災者を救援する義援金について
- ・小規模飲食店に設ける厨房用自動消火装置のあり方検討部会
- ・令和2年度 全国消防機器協会会長表

彰推薦について

- ・高性能消火器の別表追加について
- ・消防機器海外展開支援センターの設置について

◆（一社）日本消火装置工業会◆

○第402回技術委員会

（令和2年12月6日）

- ・安全センターからの著作物転載許可申請について
- ・来年度の委員会活動予算について
- ・その他

○第184回第一部技術分科会

（令和2年12月20日）

- ・防火安全技術講習講師の選出について
- ・第二部会からの審議依頼について
- ・ハウジング形継手の対応について
- ・その他

○第179回第二部技術分科会

（令和2年12月13日）

- ・来年度活動予算申請について
- ・PFOA対応WGについて
- ・泡消火設備の点検基準について
- ・その他

○第161回第三部技術分科会

（令和2年12月17日）

- ・消火設備に関する課題等についての要

協会通信

望書について

- ・ガス系消火設備警報標識板、自主認定基準の改訂検討について
- ・特殊消火設備の設置基準等に係る検討部会WGについて
- ・その他

◆（一社）日本消防ポンプ協会◆

○大型技術委員会（令和2年12月20日）

- ・消火薬剤の劇物指定について
- ・R34給油口の配置に関する対応について
- ・その他

○大型技術委員会 品質評価細則の見直し 水槽付消防車WG

（令和2年12月20日）

- ・オーバーフロー試験の水漏れについて
- ・タンク残水について
- ・マンホールの大きさについて
- ・今後の進め方について
- ・その他

○吸管技術委員会（令和2年12月11日）

- ・アンケート調査の概要報告（全国消防長会）
- ・調査結果のまとめ方について
- ・今後の予定について
- ・その他

協会通信

検定協会だより 令和2年1月

■■人事異動■■

◆日本消防検定協会◆

○令和2年1月1日付

(氏名)	(新)	(旧)
青柳 将	警報設備部感知設備課 主任検定員	警報設備部感知設備課 検定員
石川 大樹	警報設備部報知設備課 主任検定員	警報設備部報知設備課 検定員
川崎 彰太	消火・消防設備部消火設備課 主任検定員	消火・消防設備部消火設備課 検定員
齊藤 直樹	消火・消防設備部消防設備課 主任検定員	消火・消防設備部消防設備課 検定員

新たに取得された型式一覧

型式承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認 年月日
小型消火器	消第 2019～10号	モリタ宮田工業 株式会社	粉末 (ABC) 3.0kg (蓄圧式、アルミニウム 製)	R1.11.19
泡消火薬剤	泡第 2019～6号	DIC株式会社	水成膜泡3% (-10℃～+30℃)	R1.12.13
光電式スポット型 感知器	感第 2019～20号	日本ドライケミカル 株式会社	2種 (24V、100mA)・非蓄積型、非防水型、 普通型、再用型、散乱光式	R1.12.6
	感第 2019～21号	日本ドライケミカル 株式会社	3種 (24V、100mA)・非蓄積型、非防水型、 普通型、再用型、散乱光式	R1.12.6
光電式スポット型 感知器 (試験機能付)	感第 2019～26号	能美防災株式会社	2種 (24V、50mA)・非蓄積型、非防水型、 普通型、再用型、散乱光式	R1.12.6
中継器	中第 2019～17号	能美防災株式会社	直流3V、無線式 (受信用・発信用)、電池方 式 (兼用非常電源)	R1.11.19
中継器 (アナログ式、 蓄積式及び自動試験 機能付)	中第 2019～18号	日信防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗30Ω、公称蓄積時 間10秒～60秒、公称受信温度40℃～85℃、 公称受信濃度 (スポット型) 2.6%/m～ 17.2%/m、公称受信濃度 (分離型) 8%～ 80%	R1.12.13
	中第 2019～19号	日信防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗30Ω、公称蓄積時 間10秒～60秒、公称受信温度40℃～85℃、 公称受信濃度 (スポット型) 2.6%/m～ 17.2%/m、公称受信濃度 (分離型) 8%～ 80%	R1.12.13
	中第 2019～20号	日信防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗30Ω、公称蓄積時 間10秒～60秒、公称受信温度40℃～85℃、 公称受信濃度 (スポット型) 2.6%/m～ 17.2%/m、公称受信濃度 (分離型) 8%～ 80%	R1.12.13
P型1級受信機 (蓄積式)	受第 2019～15号	ニッタン株式会社	交流100V、外部配線抵抗50Ω、公称蓄積時 間60秒	R1.11.15
GR型受信機 (アナロ グ式、蓄積式及び自 動試験機能付)	受第 2019～16号	日信防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω・30Ω、公 称蓄積時間10秒～60秒、公称受信温度40℃ ～85℃、公称受信濃度 (スポット型) 2.6% /m～17.2%/m、公称受信濃度 (分離型) 8%～80%	R1.12.13
	受第 2019～17号	日信防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω・30Ω/外 部配線光損失10dB、公称蓄積時間10秒～ 60秒、公称受信温度40℃～85℃、公称受信 濃度 (スポット型) 2.6%/m～17.2%/m、 公称受信濃度 (分離型) 8%～80%	R1.12.13
	受第 2019～18号	日信防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω・30Ω/外 部配線光損失2dB、公称蓄積時間10秒～60 秒、公称受信温度40℃～85℃、公称受信濃 度 (スポット型) 2.6%/m～17.2%/m、 公称受信濃度 (分離型) 8%～80%	R1.12.13
	受第 2019～21号	日本ドライケミカル 株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω、公称蓄積時 間60秒、公称受信温度50℃～80℃、公称受 信濃度 (スポット型) 2.5%/m～17.0%/ m、公称受信濃度 (分離型) 5.0%～80.0%	R1.12.17
	受第 2019～22号	日本ドライケミカル 株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω、公称蓄積時 間60秒、公称受信温度50℃～80℃、公称受 信濃度 (スポット型) 2.5%/m～17.0%/ m、公称受信濃度 (分離型) 5.0%～80.0%	R1.12.17

検定協会だより 令和2年1月

型式変更承認

種 別	型 式 番 号	申 請 者	型 式	承認年月日
中継器（アナログ式、蓄積式及び自動試験機能付）	中第2019～2～1号	能美防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗30Ω、公称蓄積時間10秒～60秒、公称受信温度40℃～85℃、公称受信濃度（スポット型）2.6%/m～17.2%/m、公称受信濃度（分離型）8%～80%	R1.11.15
中継器	中第2019～8～1号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗50Ω	R1.12.6
	中第2019～9～1号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗50Ω	R1.12.6
	中第2019～10～1号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.12.6
	中第2019～11～1号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.12.6
	中第2019～12～1号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.12.6
	中第2019～13～1号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.12.6
	中第2019～14～1号	日本ドライケミカル株式会社	直流27V、外部配線抵抗20Ω	R1.12.6
GR型受信機（アナログ式、蓄積式及び自動試験機能付）	受第18～12～7号	能美防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗30Ω、公称蓄積時間10秒～60秒、公称受信温度40℃～85℃、公称受信濃度（スポット型）2.6%/m～17.2%/m、公称受信濃度（分離型）8%～80%	R1.11.15
	受第2019～5～1号	能美防災株式会社	交流100V、外部配線抵抗20Ω・30Ω、公称蓄積時間10秒～60秒、公称受信温度40℃～85℃、公称受信濃度（スポット型）2.6%/m～17.2%/m、公称受信濃度（分離型）8%～80%	R1.11.15

品質評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
動力消防ポンプ	P1604	株式会社 畠山ポンプ製作所	消防ポンプ自動車、A-2、F15	R1.12.9
消防用ホース	H0124FC19A	芦森工業株式会社	平、合成樹脂、使用圧1.3、呼称65（シングル、ポリエステル・ポリエステルファイラメント・ポリエステルファイラメント綾織、円織）	R1.12.9
	H0325MC03A	帝国繊維株式会社	平、合成樹脂（合成樹脂被覆）、使用圧1.6、呼称150（シングル、ポリエステルファイラメント・アラミドファイラメント綾織、円織）	R1.12.9
	H1025EC01A	株式会社 報商製作所	平、合成樹脂、使用圧1.6、呼称50（シングル、ポリエステル・ポリエステルファイラメント綾織、円織）	R1.12.9
特殊消防ポンプ自動車又は特殊消防自動車に係る特殊消火装置	NDT-15-7	日本ドライケミカル株式会社	水槽付消防ポンプ自動車	R1.12.19

認定評価 型式評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
非常警報設備・ 表示灯	認評非第 2019～14号	ニッタン株式会社	防雨型 (DC30V、15mA)	R1.11.25
	認評非第 2019～15号	ニッタン株式会社	防雨型 (DC24V、12mA)	R1.11.25
非常警報設備・ 一体型	認評非第 2019～16号	ホーチキ株式会社	普通型、DC24V	R1.12.10
	認評非第 2019～17号	ホーチキ株式会社	防雨型、DC24V	R1.12.10
非常警報設備・ スピーカー	認評放第 2019～11号	TOA株式会社	コーン型 (7.5W/15W/30W・L級)	R1.12.18
	認評放第 2019～12号	株式会社 JVCケンウッド・ 公共産業システム	コーン型 (3W/5W・L級)、音響パワーレベ ル95dB	R1.12.18

認定評価 型式変更評価

種 別	型 式 番 号	依 頼 者	型 式	承認年月日
非常警報設備・ 増幅器及び操作部	認評放第 27～5～1号	株式会社 JVCケンウッド・ 公共産業システム	AC100V、最大2880W	R1.12.16

検定対象機械器具等申請一覧表

種別		型式試験 申請件数	型式変更試験 申請件数	型式適合検定			
				申請件数	申請個数	対前年 同比(%)	対前年 累計比(%)
消火器	大型	0	0	11	1,811	77.8	93.2
	小型	0	0	80	391,363	84.1	96.8
消火器用消火薬剤	大型用	0		3	52	9.1	75.1
	小型用			12	11,849	57.3	75.4
泡消火薬剤		1		17	143,480	102.7	99.6
感知器	差動式スポット型	0	0	41	283,956	140.1	97.0
	差動式分布型	0	0	12	7,360	111.7	94.8
	補償式スポット型	0	0	0	0	皆減	50.8
	定温式感知線型	0	0	0	0	-	皆増
	定温式スポット型	0	0	41	139,413	94.0	89.7
	熱アナログ式スポット型	0	0	10	11,313	99.9	81.3
	熱複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	イオン化式スポット型	0	0	0	0	-	173.8
	光電式スポット型	0	0	48	192,052	150.1	91.2
	光電アナログ式スポット型	0	0	13	61,283	183.5	118.0
	光電式分離型	0	0	7	275	94.8	112.7
	光電アナログ式分離型	0	0	2	144	240.0	143.3
	光電式分布型	0	0	0	0	-	-
	光電アナログ式分布型	0	0	1	36	皆増	81.3
	煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	-
	熱煙複合式スポット型	0	0	0	0	-	皆増
	紫外線式スポット型	0	0	3	250	147.1	83.5
	赤外線式スポット型	0	0	6	754	174.5	139.2
紫外線赤外線併用式スポット型	0	0	0	0	皆減	68.2	
炎複合式スポット型等	0	0	0	0	-	-	
発信機	P型1級	0	0	12	20,572	68.1	63.6
	P型2級	0	0	10	5,337	74.4	66.6
	T型	0	0	0	0	-	-
	M型	0	0	0	0	-	-
中継器		3	0	112	45,566	118.0	110.3
受信機	P型1級	0	0	53	2,958	109.9	93.3
	P型2級	0	0	19	5,369	63.4	90.6
	P型3級	0	0	0	0	皆減	皆減
	M型	0	0	0	0	-	-
	R型	0	0	8	116	74.4	104.7
	G型	0	0	3	9	60.0	122.1
	GP型1級	0	1	10	31	53.4	106.4
	GP型2級	0	0	0	0	-	-
	GP型3級	0	0	11	33,939	77.3	108.1
GR型	0	0	19	229	80.6	107.3	
閉鎖型スプリンクラーヘッド		0	0	49	226,670	99.7	91.0
流水検知装置		0	0	39	2,176	103.3	78.3
一斉開放弁		0	0	23	1,463	230.4	104.9
金属製避難はしご	固定はしご	0	0	2	12	20.0	118.5
	立てかけはしご	0	0	0	0	-	-
	つり下げはしご	0	0	19	15,688	121.1	107.8
緩降機		0	0	4	560	115.5	108.1
住宅用防災警報器	定温式住宅用防災警報器	0	0	18	99,189	125.8	97.3
	イオン化式住宅用防災警報器	0	0	0	0	-	-
	光電式住宅用防災警報器	0	0	35	499,000	87.0	70.6
合計		4	1	753	2,204,275	100.7	88.8

※前年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の申請個数が「0個」のものは、対前年同比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

性能評価申請一覧表

特殊消防用設備等性能評価業務	性能評価申請件数	性能評価変更申請件数
特殊消防用設備等の性能に関する評価	0	0

受託評価等依頼一覧表

品質評価業務	型式評価依頼件数	型式変更評価依頼件数	更新等依頼件数	型式適合評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年同月比(%)	対前年累計比(%)	
補助警報装置及び中継装置	0	0	0	0	0	-	-	
音響装置	0	0	0	1	500	125.0	122.9	
予備電源	0	0	0	3	18,200	66.9	91.4	
外部試験器	0	0	0	6	153	1,020.0	126.2	
放火監視機器	放火監視センサー	0	0	0	1	597	298.5	136.0
	受信装置等	0	0	0	0	0	-	200.0
光警報装置		0	0	0	1	1,500	皆増	846.6
	光警報制御装置	0	0	0	1	30	皆増	80.0
屋外警報装置	0	0	0	0	0	-	-	
	屋外警報装置に接続する中継装置	0	0	0	0	0	-	-
消火器加圧用ガス容器	0	0	0	3	50,006	82.0	96.7	
蓋圧式消火器用指示圧力計	0	0	0	8	491,000	123.4	101.5	
消火器及び消火器加圧用ガス容器の容器弁	0	0	0	5	5,000	172.4	97.8	
消火設備用消火薬剤	0	0	0	6	94,824	86.6	73.8	
住宅用スプリンクラー設備	0	0	0	0	0	-	-	
	構成部品	0	0	0	0	0	-	-
動力消防ポンプ	消防ポンプ自動車	0	1	74	176	118.1	105.5	
	可搬消防ポンプ	2	0	5	303	125.7	103.8	
消防用吸管	呼称65を超えるもの	0	0	3	525	98.5	104.2	
	呼称65以下のもの	0	0	1	30	150.0	103.4	
消防用ホース	平 40を超えるもの	0	0	17	38,404	84.6	84.4	
	平 40以下のもの	1	0	12	42,225	76.8	72.1	
	濡れ	0	0	0	0	-	皆減	
	保形	0	0	5	8,400	100.0	107.0	
消防用結合金具	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	0	皆減	
	差込式	0	0	5	81,049	106.9	84.8	
	ねじ式	0	0	26	15,071	116.6	88.6	
	大容量泡放水砲用	0	0	0	0	-	33.3	
	同一形状	1	0	1	500	71.4	24.7	
漏電火災警報器	変流器	0	0	12	4,260	86.9	119.6	
	受信機	0	0	6	3,427	91.0	129.2	
エアゾール式簡易消火具	0	0	0	2	26,687	46.0	67.3	
特殊消防ポンプ自動車	3		1	44	53	117.8	116.3	
特殊消防自動車				9	9	180.0	85.7	
可搬消防ポンプ積載車	0		0	5	8	200.0	88.9	
ホースレイヤー	0	0	0	1	6	100.0	82.0	
消防用積載はしご	0	0	0	11	310	306.9	92.3	
消防用接続器具	2	0	4	16	5,081	98.7	115.9	
品質評価業務				確認評価				
				依頼件数	依頼個数	対前年同月比(%)	対前年累計比(%)	
外部試験器の校正				9	28	200.0	129.1	
オーバーホール等整備				8	8	100.0	100.0	

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。

※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。

※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

令和元年12月

認定評価業務		型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
					依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
地区音響装置		0	0	0	27	27,749	80.4	77.1	
非常警報設備	非常ベル及び自動式サイレン	0	0	1	51	6,431	89.9	84.1	
	放送設備	1	2	2	74	185,197	124.7	114.8	
パッケージ型自動消火設備		0	0	0	0	0	-	-	
構成部品		0	0	0	0	0	-	-	
総合操作盤		0	0	0	0	0	-	-	
屋内消火栓等	易操作性1号消火栓	0	0	0	9	2,891	105.9	96.2	
	2号消火栓	0	0	1	8	2,205	88.6	105.3	
	広範囲型2号消火栓	0	1	2	7	720	116.7	143.0	
	補助散水栓	0	0	0	0	0	-	-	
ノズル		0	0	7	29	11,521	149.1	100.8	
認定評価業務		装着番号付与 確認評価 依頼件数		更新等 依頼件数	製品確認評価				
屋内消火栓等		消防用ホースと結合金具の装着部	0	0	9	48,107	79.1	81.5	
認定評価業務		型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
特定駐車場用泡消火設備		0	0	0	10	15,910	153.7	158.7	
認定評価業務	総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価				
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備	0	0	0	0	0	0	-	-	
放水型ヘッド等を用いるスプリンクラー設備・構成装置	0	0	0	9	12	12	150.0	132.7	
特定機器評価業務		総合評価 依頼件数	型式評価 依頼件数	型式変更評価 依頼件数	更新等 依頼件数	型式適合評価			
特定消防機器等		0	0	0	1	16	15,872	36.8	71.3
受託試験及びその他の評価		依頼件数			依頼件数	依頼個数	対前年 同月比(%)	対前年 累計比(%)	
受託試験(契約等)		0							
受託試験(その他の契約等)					3	3	150.0	111.8	
評価依頼(基準の特例等)		0							

※前年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆増」と表記いたします。
 ※今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「皆減」と表記いたします。
 ※前年度及び今年度の依頼個数が「0個」のものは、対前年同月比及び対前年累計比を「-」と表記いたします。

編集 後記

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も、皆様の益々のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

昨年末、当協会の職員用パソコンが、基本ソフト(OS)である Windows 7のサポート終了などに伴い、Windows 10を搭載したパソコンに更新されました。OSのサポートが終了すると、コンピューターウイルスに対応したセキュリティ更新プログラムなどが提供されなくなり、そのリスクが高まるため、計画的に進めてきたものです。

いよいよ、東京オリンピックの開催まで半年となりました。聖火は、3月26日に福島県を出発し、121日間をかけて47都道府県を回ります。観戦チケットが当たらなかった方も、ギリシャで採火して繋がれてきた聖火リレーを見届けられてはいかがで

しょう。

さて、今月号では、消防庁長官の林崎理様をはじめ、全国消防長会会長の安藤俊雄様、関係工業会の各代表の皆様には新年のご挨拶をご寄稿いただき、誠にありがとうございました。

2月号では、さいたま市消防局長の新藤純治様には巻頭のことばを、消防庁総務課からは「令和2年度消防庁予算案の概要と令和元年度消防庁補正予算の概要について」を、住宅防火対策推進協議会（一般財団法人日本防火・危機管理促進協会）からは「令和元年度住宅防火防災推進シンポジウムの開催について」をご寄稿いただき、当協会からは「ISO/TC21/SC3国際会議報告」、「消防関係講習会等への講師派遣について」、「一般公開のお知らせ」などを掲載する予定です。

検定協会からのお願い

検定協会では、消防用機械器具等について検定及び受託評価を行い、性能の確保に努めているところですが、さらに検定及び受託評価方法を改善するため、次の情報を収集しています。心あたりがございましたら、ご一報下さいますようお願いいたします。

(1) 消防用機械器具等の不動作、破損等、性能上のトラブル例

(2) 消防用機械器具等の使用例（成功例又は失敗例）

連絡先 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
日本消防検定協会 企画研究課
電話 0422-44-8471（直通）
E-mail
<kikenka@jfeii.or.jp>

発行 日本消防検定協会

<http://www.jfeii.or.jp>



本 所 〒182-0012 東京都調布市深大寺東町 4-35-16
TEL 0422-44-7471(代) FAX 0422-47-3991



大 阪 支 所 〒530-0057 大阪市北区曽根崎 2-12-7 清和梅田ビル 4 階
TEL 06-6363-7471(代) FAX 06-6363-7475



虎ノ門事務所 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 2-9-16 日本消防会館 9 階
TEL 03-3593-2991 FAX 03-3593-2990

検定協会だよりはホームページでもご覧になれます。

当該刊行物にご意見・ご要望・ご投稿がありましたら、本所の企画研究部情報管理課検定協会だより事務局までお問い合わせください。
e-mail : kikaku@jfeii.or.jp 専用 FAX 0422-44-8415

